

## 第Ⅱ章 道徳教育の充実に向けて

### 1 生命を尊重する心を育てる道徳教育の充実

#### (1) 指導に当たって

- ・子どもたちの現状と課題 平穏な生活を送っているとき、私たちは生命の尊さや生きることの意義を実感することが少ない。ましてや心身の発達が著しく、気力が充実している児童生徒にあっては、この傾向が一層顕著である。また、昨今、子どもたちはテレビ番組やコンピュータゲームなどの痛みを伴わないバーチャルな世界の中で、平気で他者を傷付け、生命を軽んじるような場面にさらされている。加えて、核家族化の影響もあり、身近に「死」と接する機会が少なくなっている。このような中、生命を尊重する心や他人を思いやる心の育成を図ることは益々重要な課題となっている。

#### □ 生命を尊重する心を育てる指導をどうとらえるか

- ・自分とのかかわり 生命を尊重する心を育てる指導を進めるとき、「自分とのかかわり」と「人と人とのつながり」という二つの視点を大切にしたい。
- ・人と人とのつながり 特に、生命を軽視した最近の様々な事件の背景には、自他共に認められていない自分へのいら立ちや寂しさ、人と人とのつながりの希薄さがあるように思われる。逆に、生命にかかわる心温まるニュースや出来事を見聞きすると、人の温かさやつながりの深さ、喜びがじわりと感じられる。

これらのことを踏まえると、生命を尊重する心を育てる指導は、生物的に生きているという視点での生命の尊重だけでなく、「かかわり」や「つながり」という視点で生命の尊重をとらえることが大切である。そして、その指導も、かかわりやつながりを大切にした次のような取組を進めていくことが重要である。

- ① 道徳の時間を中心に、「生命」の大切さを単なる知識理解ではなく、自分とのかかわりや人とのつながりを大切にしながら学べる学習
- ② 一人一人の子どもが、自分は認められていると実感できる日常の学級経営
- ③ 子どもたちの周りの大人が、「生命」の大切さを身をもって示す姿勢

次に、①を中心に、生命を尊重する心を育てる指導のポイントについて考えたい。

#### □ 「生命」の大切さにどう切り込むか

- ・道徳の時間 生命を尊重する心を育てる指導は、全教育活動の中で取り組むことになるが、ここでは、道徳の時間の指導について考えたい。

道徳の時間の指導を進めるとき、「〇〇の大切さについて考える」といった、ごく抽象指導的なねらいやとらえ方で臨みがちである。「〇〇の大切さ」を、どの切り口やどの側面から迫るのかを明確にしないと、観念的で建前的な授業となり、教員が言葉ですべてを伝えて終わりの押し付け的な指導に陥ってしまいがちである。ねらいとする道徳的な価値について、どのような切り口や視点から迫るのかを指導者がしっかりとつとめることが大切である。「生命」についての指導も、同様である。

まず、「生命」について、どのような場面で考え合うのかを明確にしたい。

・場面

- 「生命」の誕生のとき
- 今、まさに生きているとき
- 「生命」がなくなるとき

・視点

- 「生命」の力強さや不思議さ（強さ）
- 「生命」は授かったもので、人間の力を超えたものである（偶然性）
- 「生命」はなくすと元に戻すことはできない（非可逆性）
- 「生命」には限りがある（有限性）
- 「生命」は周りの人たちや生き物に支えられている（横のつながり）
- 「生命」は受け継がれてきたものである（縦のつながり）

次に、「生命」の大切さを、どのような視点から考えるのかを明らかにしたい。

もちろん、上に述べた中のどれか一つの視点だけで考えられるものではなく、重なりもある。重なりも含めて、どの切り口から考え合うのかを明確にしておくことが大切である。

最後に、子どもの発達段階を考えることも大切である。

・発達段階

低学年……身近な生活の中から、「生きている」ことや「生きていることの喜び」を自覚できるようにする。  
 中学年……喜びや悲しみを通して自分の「生命」の尊さに気づき、それを「生命」あるものすべてに広げることができるようにする。  
 高学年、中学校……「生命」の大切さを様々な視点でとらえ、自他の「生命」を尊重する心や「生命」への畏敬の念をもつことができるようにする。

学校・学年 段 階	学習指導要領第3章道徳 に示された内容 (3-(2))	指 導 の 着 眼 点
小 学 校	低学年 生きることを喜び、生命 を大切にすることを大切にする。	見過ごしがちな「生きている証」を実感し、そのことに喜びを見いだすことによって生命の大切さを自覚できるようにする。
	中学年 生命の尊さを感じ取り、 生命あるものを大切にする。	自分の生命の尊さを知り、同様に生命あるものすべてを大切にしようとする心を育てる。
	高学年 生命がかけがえのないも のであることを知り、自他 の生命を尊重する。	人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念を育てる。
中 学 校	生命の尊さを理解し、か けがえのない自他の生命を 尊重する。	生きとし生けるものの生命の尊厳に気付かせ、生命に対する畏敬の念を育てる。生命あるものは互いに支え合って生き、生かされているということに感謝の念をもつよう指導する。

学校段階	学習指導要領第4章特別活動 に示された内容 (A-(2)イ)	指 導 の 着 眼 点
高等学校	心身の健康と健全な生活 態度や習慣の確立、生命尊 重と安全な生活態度や習慣 の確立など。	自他の生命をかけがえのないものとして尊重する精神と態度を確立するとともに、自分の生活行動を見直し、安全に配慮し、危険を予測できる力や的確に行動できる力を高めていくよう日ごろから注意を喚起し指導する。